# 園部共同作業所だより

園部共同作業所発行
〒６２２－００１１
京都府南丹市園部町上木崎町入道３２
電話０７７１－６２－３２４９
ＦＡＸ０７７１－６３－２９４１

NO ８１

## 謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

物質文明に恵まれ、人の優しさ、思いやりの心が失われ、毎日のように、いたましい事件が報道されております。日本の社会はどうなっていくのでしょうか。障害者も健常者も共に安心して暮らせる社会の到来を願わずにはおられません。さて、当作業所も昨年より障害者自立支援法による就労継続支援Ｂ型施設となりました。当初は通所者の利用料の負担や、施設、事業所の運営には「日払い計算方式」になるなど、いろいろと心配しておりましたが、利用料に若干の問題を残しながらも運営に大きな影響も出ることなく、安定した方向へと進んでおります。これからも精神保健福祉が守られ、対象者が豊かな地域社会で安心して暮らせるよう努力する所存であります。本年も皆様のご指導とご支援をよろしくおねがい申し上げます。

所長　杉山俊夫

## 寄り添える地域支援を目指して

今年度から地域の相談支援員として忙しく日々を過ごしております。

K.M.さんから相談を受けたのは、地域相談に関わって間もない初夏の頃のことでした。当初、相談の内容をお伺いした時、その内容に驚きと憤りは出来ませんでした。話せる内容については詳しくは、結果しか自宅のおしらせ出来ませんが、一変してしまった作業所には通えなくなってしまいました。彼女のお母様は、日々、「これから何とか、何とかしなければ」と悩んでおられる姿を目の当たりにされて、何とかしなければ」と思いを持ちました。

相談当初から、関わっていく中で、彼女の作業所仲間に対する「仲間に迷惑を掛けたくない」と言う思いやりの気持ちや、強い部屋の中で、何と強い思いを持ちまして、悩みや思いを傾聴することを一番に、いろいろな思いをお話頂けるようにと先ずは信頼関係の構築が出来ることを最優先にしました。

そんな中、周りの支援者に関わろうとしました。

又、通いたいのに通えない事の気持ちの葛藤の中で、相談者の立場に立って、別の声掛けもあり、どこか作業所の見学をしてみようと言うところまで彼女のモチベーションも高まってきました。

いくつかの作業所見学を経て、ここ園部共同作業所に通うことを彼女が決められたのですが、通い始めるにあたって、今度は長く在宅をされたことも あって、電車に乗ることが困難な状況になっておられました。そこで、試行策として、パーさん同行で利用のお試し期間を設けて利用の為の準備期間を設定する事になり、どうにか通所を開始したのですが、次の課題として通所に切り替えるかと言う問題が生じました。作業所の同じ杉山所長と相談して町内から通っておられる人と同じ方向へと進んでいる事に顔合わせをしてみたところ、今では非常にいい状態となり、彼女一人だけでも通所が出来るような良い状況になりました。今後の取り組みは、通所の回数を増やし、又、一日の利用時間の延長も出来ればと考えております。

相談支援専門員　今西　信行

## 寄贈品（平成二十二年九月一日～十二月末日現在）

西田　光子様　ジュース
城島　幹夫様　お茶
的場　利三郎様　菓子
山千代美様　みかん
片　あたご電子様　みかん

## 寄付金

長曽　敏雄様　もち、野菜、魚
中川　京子様
南丹市社会福祉協議会様　クイズ景品
河邊　信一様　タオル
木下　悠紀子様　ケーキ　菓子
南丹市チャリティゴルフ実行委員会様
熊谷　じゅん子様
木下　悠紀子様
石田　寛子様
上田　百合子様
南丹市社会福祉協議会様
南丹市共同募金委員会様

いつもお心遣いありがとうございます。

## 行事・レクレーション

十月二〇日　日帰りバス旅行　彦根キリンビール工場見学と梨がり
十月二十三日　ソフトボール交流試合　桜ケ丘クイーンズと対戦
十月三十日～三十一日　南丹工芸文化祭　ステンドグラス製品と古木のインテリア置物など展示と販売
十一月五日　スポーツ大会　精神障害者西京極
十一月六日～七日　園部町文化祭　ステンドグラスランプと石田哲さんの絵画展示
十一月十日　嵯峨嵐山から清滝、保津峡まで歩く　ハイキング
十二月十三日　クリスマス会
十二月二十八日　忘年会

## カレンダーを描き終えて

園部共同作業所で始めてのカレンダー作り、数は五〇〇部でした。カレンダーの絵を描いた私は、五十六歳。作業所に通所歴二十余年の自他共に認める古狸です。カレンダー製作の話は、当初からあったのですが、私の心の調子がととのわず、『芸術家という者は創作意欲がわかないと、なかなか取りかかれないものなのです』長い年月となりました。それでも最初はできるかどうか自信がありませんでした。でも、かまくら（冬）が思いの外うまく出来たので、あとは苦しみながら突貫工事で七月には描き終わりました。カレンダーのキャラは"作業所だより"のカットから、背景はNPOの京都府精神保健職親会の絵画展に応募している水彩画から。それを合成して昔のほのぼのとした農家の四季を構成しました。そうして見本に続いて印刷が済み、とうとう本物のカレンダーが作業所に届きました。

なにしろ五〇〇部です。積み上げられたその高さは百十センチもありました。所長さんは福祉関係の方々に購入をお願いし、作業所のメンバーさんも買ってくれました。「やっぱり仲間やなぁと思いました。」しかし、私としては絵がまずくて売れなかったらーという心配はありました。ところが、そんな時、京都新聞の記者さんが作業所へ来られ、私はインタビューを受け、このカレンダーの事が記事に載ったのです。そして京都福祉新聞にも同様に載り、で、この宣伝効果は絶大で、作業所は毎日カレンダーの予約受付と代金の受け取り、郵送のための包装や配送と、てんてこ舞でした。

そしてとうとう十一月十日にカレンダーは全て売り切れてしまいました。今考えるとあっという間の出来事でした。売り上げは全額作業所メンバーさんの年末ボーナスとなりました。購入いただきました関係の方々に改めてお礼申し上げます。作業所の仲間たちもありがとう。これからも仲良くやろうね。

こころのふるさと製作者
石田　哲

## 就職へ向けて

就職へ向けてまず始めに行ったのは、所長に南丹障害者就業・生活支援センターの滝井さんと西さんを紹介してもらいました。滝井さんと西さんと話をしている内に京都駅の近くにある職業訓練を一度でいいから受けて見ないかという話になりました。職業訓練とは色々な検査をし、自分が嫌手な職業とかむいている職業とか長所とか短所がわかる検査だ。その検査の内容は、片手で棒をひっくり返したりだとか、小さいコインをきれいに積んだり、握力を量つたり、赤青黄色の三ケタの数字が書いてある板に所定の位置にもどしたり、例えば、赤三二一やったら、赤の三二一の所にいれる。あと出来るだけ多く作る、水道のじゃ口の組立とか、あと、国語、算数etc色々な検査をやった。二週間くらい待った。検査結果は年末に所長に言われた通りの結果でした。次に進むのは、実習をやった。あとから聞いた話によると、作業所で初めての実習らしく、その時は、プレッシャーを感じた。実習先は、四日間でした。ばしょは、園部の博物館でした。少しの間でしたが、やさしい先輩ばかりでよかった。作業所とはまったく違う内容の仕事が体験出来楽しかった。休憩三回有、三回ともコーヒーが出た。何故こんなことを書いたのかというと、コーヒーに付いていた砂糖が作業所でお世話になっている豊和さんの砂糖やった。まさか博物館に来てまで縁があったとは‥。博物館で一番楽しかった仕事は一枚の紙をのりでくっつけ貼り合わせ、大きな、看板を作る仕事でした。博物館でいい仲間に恵まれました。博物館でくいが残つたのは、目の前にパソコンが有るのにもかかわらず、パソコンを使えないことだ。これからは絶対やったことのない仕事にもどんどんチャレンジしていきたいです。今度の実習先もきまっているので、いい仲間と仕事にめぐりあせえたら幸せです。博物館では、泰すけさんが時間のゆるす限り来ていただき、気持ちが楽になった、泰すけさんありがとうございました。泰すけさん滝井さん西さんおつかれさまでした。

高見　大佑

## クリスマス会

今年も恒例のクリスマス会が、十二月二十三日に開催されました。毎年クリスマス会で楽しみなのが、メンバーさんと職員による出し物です。今年もカラオケ、寸劇、ダンス、ゲーム等と、マジック同好会の方のマジックショーと盛りだくさんのプログラムで始まります。中でもシークレットゲームは、ゲームが始まるまで内緒でした。名前を呼ばれた人はびっくり！ゲームは大変盛り上がり、みんなで楽しみました。今年は、メンバーさんの自主的な面も見られ、いろいろと考案もし大変よかつた思います。

どの班も各々工夫をし、衣装を考え、作業の合間に何回も練習し頑張りました。そして最後のプログラム、みんなのお待ちかねサンタさん登場では、プレゼントを手に嬉しそうです。今年も南丹市社会福祉協議会様より、歳末助け合い運動の助成金を頂きありがとうございました。毎年、このような楽しいクリスマス会を開けることに感謝しております。来年は、どんな楽しいクリスマス会になるのでしょうか。

塩内　文代

## 編集後記

時の流れの変化……

年々月日が早くなってきます。

歳のせいでしょうか。

今年も皆様には何かとお世話になるかと思いますが、どうぞよろしくお願い致します。